

南薩教育事務所だより

令和6年10月発行

「R6 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果 (エビデンスに基づいた指導)」

南薩教育事務所 指導課長 川畑 浩二

R6 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果から、「全国に比べてよい傾向が見られた質問」、「全国に比べてよい傾向が見られなかった質問」を取り上げてみたいと思います。

小学校の「全国に比べてよい傾向が見られた質問」では、「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）。」が全国より6.6p高い結果となりました。本地区の児童は、身近に本があり、日常的に読書活動ができる環境にあると考えられます。中学校では、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」が全国より7.1p高い結果となりました。本地区の生徒は、基本的な生活習慣が身に付いていると考えられます。基本的な生活習慣と学力の相関は、基本的な生活習慣が身に付いている児童・生徒ほど、学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。（起床時刻と正答率、就寝時刻と正答率のクロス集計から。）

一方、小学校の「全国に比べてよい傾向が見られなかった質問」では、「理科の勉強は好きですか。」が全国より8.3p低い結果となりました。理科好きな児童の育成のために、日頃から自然の事物や現象に関わらせるなど理科に関する興味関心をもたせることが重要です。また、授業改善では、児童の実態に応じ、十分な観察や実験の時間、課題解決のために探究する時間などを設けたり、観察・実験の方法や結果などをタブレット端末などを用いて動画や写真などを有効に活用したりすることが考えられます。中学校では、「PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（2）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。」が全国より8.0低い結果となりました。生徒のタブレット等のICT機器の活用は、年々高まってきていますが、活用方法は未だに教師の許可がなければ活用できない状況があるようです。教師は、タブレット等のICT機器を文房具の一つと捉え、常に生徒の机の上に置いて授業を開始することが望まれます。教師は、タブレット等のICT機器の活用では、生徒に「委ねる」ことを意識し、生徒と共に授業デザインしていくことも考える必要があります。

詳細を掲載しておりますので、本地区の強み、弱みを理解して、エビデンスに基づいた指導をしていきましょう。

全国に比べてよい傾向が見られた質問

(小学校)

順位	質問番号	質問	地区平均	全国平均	全国との差
1	23	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)。	21.2	14.6	+6.6
2	16	学校に行くのは楽しいと思いますか。	53.0	47.2	+5.8
3	17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	34.1	30.3	+3.8

(中学校)

順位	質問番号	質問	地区平均	全国平均	全国との差
1	2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	42.0	34.9	+7.1
2	45	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	58.3	52.3	+6.0
3	8	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。	32.9	28.4	+4.5

全国に比べてよい傾向が見られなかった質問

(小学校)

順位	質問番号	質問	地区平均	全国平均	全国との差
1	58	理科の勉強は好きですか。	44.8	53.1	-8.3
2	21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。)(3時間以上)	3.0	11.0	-8.0
3	27	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(ほぼ毎日)	17.9	25.3	-7.4

(中学校)

順位	質問番号	質問	地区平均	全国平均	全国との差
1	28-2	PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2)分らないことがあった時に、すぐ調べることができる。	54.8	62.8	-8.0
2	9	自分には、よいところがあると思いますか。	33.0	40.4	-7.4
3	21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。)(3時間以上)	3.9	9.2	-5.3
3	64	1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。	38.7	44.0	-5.3
3	29	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	16.9	22.2	-5.3

「体罰や不適切な指導等の根絶に向けて」

県内では、体罰や不適切な指導等、学校職員への信頼を揺るがす不祥事が発生しています。

これらの不祥事を学校職員一人一人が自分事として受け止め、教育に携わる者としての自覚を堅持し、常に危機意識をもち教育に対する信頼を損ねることがないように努めなければなりません。

不適切な指導や体罰となることがないように、児童生徒への指導の在り方について再確認しましょう。

○ 体罰の根絶

児童生徒の問題行動等への対応が「教師の怒りの感情（不快感）」の解消を目的としたものとなっていないか。

※ 「感情的になってしまった」との理由から体罰を行っていることから、「カットになったら6秒待つ」

○ 不適切な指導，言動の防止

児童生徒の状況や立場を一切踏まえず、教師自身のこれまでの経験等に基づく教育観や指導観のみを重視した指導となっていないか。

- ・ 人格を否定するような発言や大声で叱責したり、物をたたいたり蹴ったりしていないか。
- ・ 宿題や提出物などを忘れた場合に、提出締切日を守らせることのみが目的となり、自宅に取りに帰らせていないか。
- ・ 同内容について長時間指導したり、複数の教師による過度な指導を行ったりしていないか。

○ 資料の活用

- ・ 信頼される教職員・学校を目指して（体罰防止ハンドブック：令和元年12月）
- ・ 信頼される教職員・学校を目指して（令和5年6月改訂版）

「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果」

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果が、7月末に公表されました。南薩地区については、全教科、全国よりおおよそ2ポイント程度低い結果となりました。知識・技能、思考力・判断力・表現力についても全教科、全国と比較して下回る結果となっています。

知識・技能については、全教科正答率が60%を超えていますが、思考力・判断力・表現力は、特に、算数、数学において、正答率が50%を下回っており、数学においては、30%を下回る結果となっています。

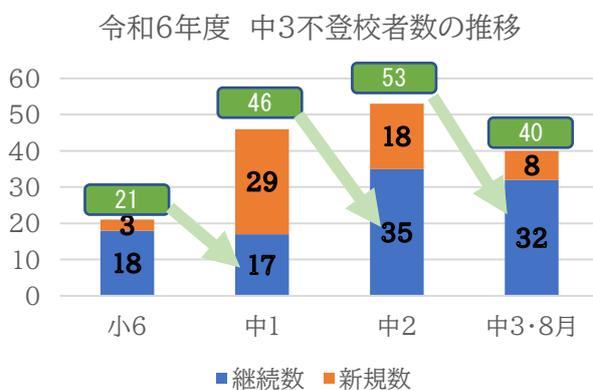
また、中学校数学においては、生徒質問紙の結果から、「数学の授業の内容はよく分かる」という質問に対し、否定的な回答をした生徒の割合が25%を超えていました。「学習者主体の授業」を行うことで、個別最適な学び（個に応じた指導）が実現し、わかる授業につながります。

2学期以降、学習者主体の授業づくりを推進するとともに、地区の課題である思考力・判断力・表現力を高める取組を充実させていきます。

「魅力ある学校づくり」

新規不登校を生まないために、全ての児童生徒を対象にした居場所づくりや絆づくり、授業改善を目指して、魅力ある学校づくりの取組を推進しています。

また、生徒指導の実践上の視点である、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成を意識して取り組んでいます。



「南薩地区PTA役員等研修会」

6月26日（水）に地区PTA役員等研修会を開催しました。講師に鹿児島大学法文学部准教授の金子満准教授をお招きして、講話をしていただきました。

講話では、「協働から響働へ、新たな時代に向けたPTAの意義と可能性」と題して、人口減少とともに様々な課題が浮き彫りになりつつあるこの現代社会とPTA活動を関連付けて、分かりやすくお話ししていただきました。

特に、コミュニティづくりでは個々が自分のよさや可能性を認識し、人と人がつながり、得意、不得意を理解し合いながら協働することが大事であるということが印象に残りました。そして、学校においてPTA活動を行う上で大事なことは、何のために行う活動なのか目的を明確にし、お互いの足りない部分を支え合えるような活動にすること、さらに、子どもたちそれぞれが自分自身の「存在」を認識できるよう保護者としてサポートできる活動にしていけることが重要であることなどを学ぶことができました。



「南薩地区社会教育担当者研修会」

7月4日（木）に地区社会教育担当者研修会を開催しました。講師に全日空空輸株式会社・ANAあきんど株式会社鹿児島支店長の藤崎美保氏をお招きし、「ANAグループで学んできたこと」と題して、講話をしていただきました。講話では、御自身のANAでの客室乗務員、そして、様々な部署におけるマネージャーとしての豊富な御経験をもとに、地域創生に向けての取組や管理職としての心構えや考え方など、事例等を交えながら、分かりやすくお話ししていただきました。特に、自分に付加価値を付けるために学び続けることの大切さや関心領域を広げること、視点を変えて観ることの大切さなど、たくさんの示唆を与えてくださる内容でした。

社会教育行政を進めていく担当者として、地域づくりのために様々なことに興味をもちながら、前例踏襲ではなく視点を変えて取り組んでいくことが大切であることを改めて確認することができた研修会となりました。



「チャレンジかごしまで体力向上」

チャレンジかごしまの前期申告は以下のとおりです。

【チャレンジかごしまへの取組率】

	小学校		中学校	
	学校申告率	学級申告率	学校申告率	学級申告率
地区 (R6) ※前期 (4/15~8/9)	100% (38/38)	87.2% (224/257)	100% (17/17)	98.9% (91/92)
地区 (R5)	100% (40/40)	97.4% (262/269)	100% (17/17)	94.7% (90/95)
県 (R5)	98%	75%	91%	63%

各学校にて、積極的にチャレンジかごしまに取り組み、体力向上に励んでいるようです。特に、中学校ではほぼ全学級で多種目に挑戦しています。

南薩地区の課題は、柔軟性ということから地区の重点取組を「のばしてコロコロ」としています。

【のばしてコロコロの取組率】

	小学校		中学校	
	学校申告率	学級申告率	学校申告率	学級申告率
地区 (R6) ※前期 (4/15~8/9)	60.5% (23/38)	37.7% (97/257)	64.7% (11/17)	63.0% (58/92)
地区 (R5)	62.5% (25/40)	26.8% (72/269)	23.5% (4/17)	24.2% (23/95)
県 (R5)		423 学級		191 学級

全体的な取組と比較するとやや取組率は低いようです。継続的な取組により、柔軟性は高まっていきます。体育の授業や業間に友達と楽しみながら、積極的に取り組んでほしいと思います。